

2022年度

<現代システム科学域>  
小論文問題

注意事項

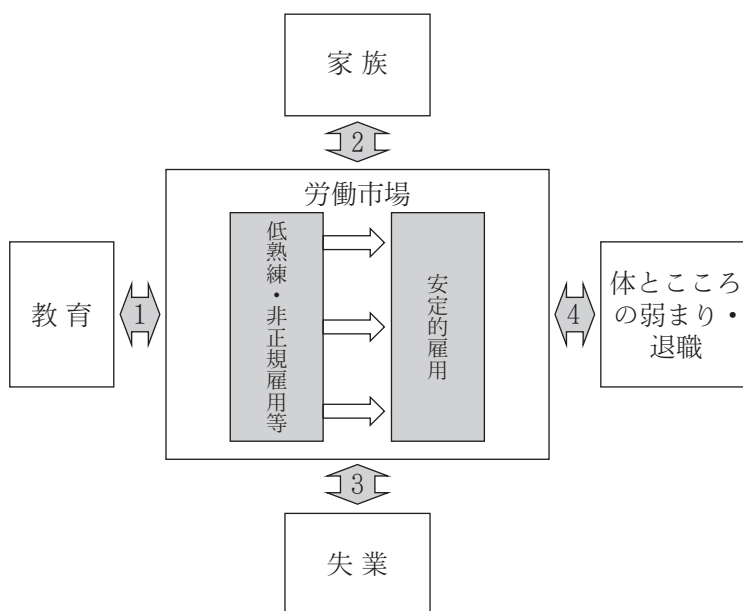
- 1 問題冊子は、監督者が「解答始め」の指示をするまで開かないこと。
- 2 問題冊子は全部で8ページ、解答用紙は全部で4枚、下書き用紙は全部で2枚である。脱落のあった場合には申し出ること。
- 3 解答用紙の各ページ所定欄に、それぞれ受験番号（最後のページは、左右2箇所）、氏名を必ず記入すること。なお、解答用紙は上部で接着してあるので、はがさず解答すること。
- 4 解答は、すべて解答用紙の所定欄に記入すること。
- 5 解答は、横書きにすること。
- 6 解答に字数の制限があるときは、句読点や記号を含めて数えること。
- 7 解答以外のことを書いたときは、該当箇所の解答を無効とすることがある。
- 8 問題冊子の余白は下書きに使用してもよい。
- 9 問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。

(余 白)

## 第1問

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

参加支援を組み入れたライフサイクルは、ドイツの労働経済学者ギュンター・シュミットのモデルもふまえて、図5-1のように表すことができる。ここでは、教育を終えて労働市場に入り、家族をもち、退職をする、場合によってはその途中で離職し、いったん労働市場の外に出るといふ、ライフサイクルの五つのステージが示されている。



出所：Günther Schmid and Bernard Gazier (eds.), *The Dynamics of Full Employment: Social Integration Through Transitional Labour Markets*, Edward Elgar, 2002の図を大幅に訂正

図5-1 参加支援を組み込んだ「交差点型」社会

20世紀型福祉国家や日本の生活保障が前提としていたのは、この五つのステージを、左から右へ淡々とすすむ、「一方通行型」のライフサイクルであった。一方通行の道筋は、男性と女性で異なっていて、男性稼ぎ主が労働市場を直進し続けるのに対して、女性はしばしばその途中で進行方向を変え、家庭に入ることを余儀なくされた。

参加支援をライフサイクルに組み込むことは、この五つのステージに図のような双方向型の橋を四本架けることに<sup>たと</sup>喩えることができよう。四本の橋は、それぞれが先ほど触れた一連の参加困難を解決するためのものである。橋が架かることによって、性別や年齢の

如何いかんを問わず、人々は人生の五つのステージを行きつ戻りつして社会とつながり続けることができる。つまり、性別でコースの分かれた「一方通行型」の社会を、性別や年齢でのコース指定のない、「交差点型」の社会へ転換することができる。

第一の橋は、教育と労働市場をつなぐ橋である。生涯教育や社会人入学を重視した高等教育など、働き始めても学び直すことができる条件づくりが、この橋の役割である。第二の橋は子どもを産み、育て、家族のケアにかかわりながら働き続けるための橋で、保育や介護のサービスなどがその内容である。第三の橋は、解雇されたり自発的に職を辞した後でも労働市場に戻っていくための橋であり、職業訓練や職業紹介などがその中身である。最後に第四の橋は、体とところの弱まりに対処しつつ働き続けるための橋であり、高齢者の就労支援や人々の「生き難さ」を解消するさまざまなサポートを指している。

[中略]

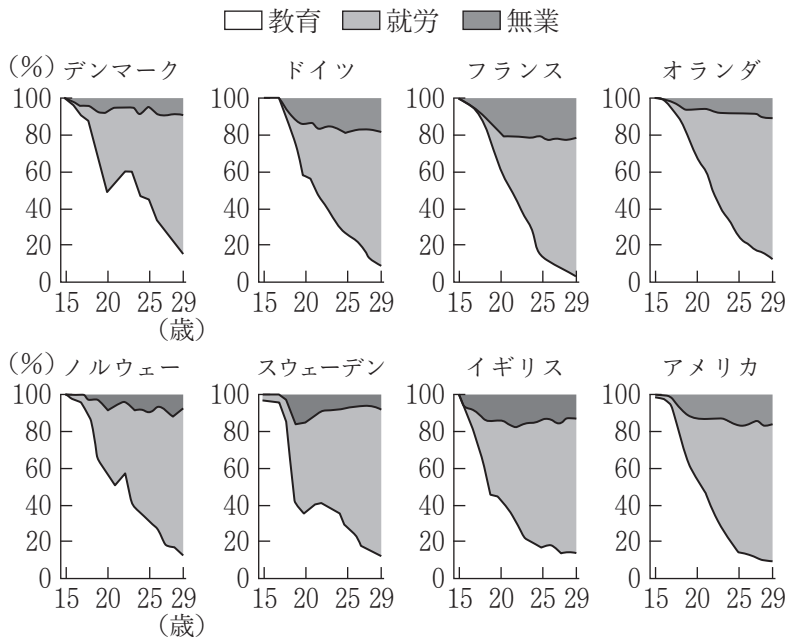
生涯教育、高等教育や就学期間中の所得保障などが第一の橋を構成する。日本でも、インターンシップなど、学生の職業体験の効用が説かれている。しかし、現実のライフサイクルは、依然として「一方通行型」である。つまり、高等学校を終えてそのまま大学に進学し、しばらくすると「就活」を開始し、うまくすれば内定を得て就職する。よく考えると、私たちが当たり前と考えているこの道筋は決して合理的ではない。主体的に働いてみて初めて自分の資質や向き不向きが見えてくる。就くべき仕事やそのために修めるべき学問も、その時初めて決めることができるのではないか。

第三章（注）において、スウェーデンで自治体が提供する生涯教育プログラムや無償の高等教育、就学期間中の所得保障などを紹介した。加えて、雇用主に対して労働者が教育のために休職することを認めさせる教育休暇制度があり、さらには、高等教育機関の側にもいったん社会に出た若者を優先的に受け入れる仕組みがあった。しばらく前までは、25・4ルールといって、一定の学力水準をもっている25歳以上で4年以上の勤労経験がある者を別枠で入学させる制度もあった。その結果、若者たちの多くが、高校を終えるといったん働き始め、その後大学に入学する。

図5-2は、各国の若者が、教育と就労をめぐるどのようなライフサイクルたどを辿っているかを示したものである。横軸は15歳から29歳までの年齢、縦軸は年齢ごとの教育、就労、無業の割合を示す。スウェーデンをはじめ、北欧の若者たちは、高校卒業のあたりでいったん教育を受けるものが減って働き始めている。そしてしばらくして教育に戻ってきていることが分かる（図のなかの小さなヤマ）。大学入学者の平均年齢は、OECD諸国の平均が19.4歳であるのに対して、スウェーデンの場合は22.7歳である。文系学部だけで

見れば、平均年齢はもっと高いであろう。

このようにして、若者が自らの資質に適合的な仕事を見出し、学び、キャリアを形成していくことができるならば、それは一人ひとりにとっての幸福であると同時に、人的資本を適材適所で活用していく点で、社会全体の経済的な強さにつながる。このようなかたちで労働市場と教育をつなぐ橋が双方向的に組み上がるならば、人々のライフチャンスは大きく高まる。日本ではいったん非正規の仕事に就くと、そのままそこから抜けられなくなる可能性が高い。これに対して「交差点型」の社会では、低熟練やパートタイムの仕事を一つのステップとしつつも、時期がくればいったん労働市場を出るなどして学び直し、あるいは訓練を受けて、その後により専門的で見返りの大きな仕事に就いていくことが可能になるのである。



出所：OECD, Economic Survey Sweden, 2008/20  
Supplement No. 2.

図5-2 若者のライフサイクルの比較（2006年、アメリカは2005年）

（出典：宮本太郎、『生活保障 排除しない社会へ』、岩波書店、2009年。ただし、引用にあたって一部の表記を省略し、一部を変更した。）

\*以下の（注）は、出題に際して付加したものである。

（注） 第三章とは、出典、『生活保障 排除しない社会へ』の第三章をいう。

### 問 1

下線部「私たちが当たり前と考えているこの道筋は決して合理的ではない」とは、どのような理由からか、100字以内で説明せよ。

（配点 25点）

### 問 2

図 5-2 から、デンマークとアメリカを比較し、若者のライフサイクルの違いを、150字以内で説明せよ。

（配点 25点）

### 問 3

教育と労働市場に双方向型の橋が架けられると、どのような社会になると考えるか、筆者の意見を整理した上で、それに対するあなたの考えを450字以内で述べよ。

（配点 50点）

## 第2問

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

団塊世代の高齢化を目前に控え、あらゆる人が人生のなかで何らかのかたちで介護に関わる大介護時代に日本はこれから突入する。もはや男性といえども、介護責任から簡単に逃れられない。今日の家族介護の主流は、嫁による介護ではなく、夫婦・パートナー間の介護と、実子による介護である。嫁に代わる新しい介護の担い手として増加しているのが、夫や息子といった男性介護者である。その割合は、同居の主たる介護者の3割、100万人を超える。

[中略]

男性介護者の増加は、ケアにおける男女共同参画の実現という観点からみれば、喜ばしい前進といえるかもしれない。しかし、こうした介護者における性差の縮小は、介護をめぐるジェンダー規範の弛緩しかんとかならずしも連動しているわけではない。多様性はあるものの、女性頼みだった家事などの生活面での男性の自立の遅れが、介護を契機として表面化することは少なくない。仕事を機軸とした人間関係とジェンダー・アイデンティティを形成してきた男性は、合理性や効率性、競争といった企業社会の価値規範を内面化しているため、強い責任感をもって介護に挑む。しかし介護は、本来企業の論理とは相いれない要素を多分に含んでいる。仕事のように介護に専念しても、その苦勞がかならずしも報われるとは限らず、達成感を得られるどころか、絶望の淵ふちに立たされることもめずらしくはない。男性の責任感の強さは、SOSのサインを他人に出すことを阻む要因として作用することもある。介護を自分だけで抱えこんでしまい、孤立してしまう男性介護者も少なくない。このことは、高齢者虐待の6割は男性が占めていることとも無関係ではないだろう。

[中略]

介護を中心としたケアの領域への男性の参画は、個人的な努力によってのみ達成しうるものではなく、男性の新しい生き方のロールモデルの構築がともなわなければならない。そのためには、男性がケアに関わること自体を困難にしている長時間労働の抜本的解消を含む男性中心の企業風土の改善や、ケアへの参画を後押しする社会的支援のしくみが必要不可欠である。

[中略]

男女問わずケアに関わることを権利として社会的に保障していく動きは、単なる個人への支援を意味するだけではない。じつは、社会のあり方そのものを問いなおす視点も私た

ちに提供してくれる。ここで、「ケアの倫理」と称される、フェミニズムによる研究に注目してみたい。それは、ケアという相互行為を通じて構築される関係性が有する社会的価値の再評価に関わる一連の研究である。近代的な人間像が重視してきた個人の自立という価値は、ケアされること＝依存することを低く評価することと表裏一体となっている。

(1)「依存の否認」に依拠した近代的な人間像に対置する新しいモデルの構築にあたって、マーサ・A・ファインマンは、そもそも、人間が生まれてから死ぬまでの間、かならず誰かに依存しなければ生きていけないという現実（「不可避の依存」）から出発することの重要性を指摘した。さらに、ケアを担う人間もまた、仕事などの社会生活において、ケア責任を抱えていない人と比べて、弱い立場に立たされる（二次的依存）。すべての人間が傷つきやすい存在であり、他者に依存せざるをえない存在であるという事実から社会のあり方を構想する視点は、個人の自立ではなく、ケアを媒介とした関係性を重んじる立場をとる。つまり、ケアされる／ケアするという関係性は、ときに葛藤や衝突にさいなまれながらも、合理性や効率性といった観点だけでははかることができない私たちの生活の重要な部分を占めており、人と人とのつながりや共生を尊重する社会を構想する起点となりうると考えられる。

ここで肝要なことは、(2)「ケアされる／ケアすることによって不利益を被らない社会的な仕組みを構築すること」である。とりわけ、女性の自己犠牲のうえに成立してきた従来のケアとジェンダーの根深い歴史にかんがみ、これを単に美化し温存することは回避されなければならない。ケアは、二者関係に内閉化されることなく、より開かれた社会的支援のなかに位置づけられなければならない。

（出典：斎藤真緒、「ケアする——ケアはジェンダーから自由になれるか」、伊藤公雄・牟田和恵 [編]『ジェンダーで学ぶ社会学 [全訂新版]』、世界思想社、2015年。ただし、引用にあたって一部の表記を省略し、一部を変更した。）

## 問1

男性介護者の困難について本文に即して150字以内で説明せよ。

（配点 25点）



## 問2

下線部（1）「「依存の否認」に依拠した近代的な人間像に対置する新しいモデル」とはどのようなものか、150字以内で説明せよ。

（配点 25点）

## 問3

下線部（2）「ケアされる／ケアすることによって不利益を被らない社会的な仕組みを構築すること」とあるが、その不利益の具体的な事例を一つあげ、それを解消する仕組みについて、あなたの考えを400字以内で述べよ。

（配点 50点）